

**教育・保育理念**

- ・自分も友だちも大切にできる心の育成
- ・学びの芽の育成
- ・自分の可能性や能力の発揮

**園の重点項目**

一人一人の人権を大切にしながら、こどもが安心・安全に過ごせるようにし、主体的に生活や遊びを取り組む力を育む

**令和7年度 重点内容**

- ・主体性と自己肯定感を育む
- ・楽しく体を動かし健康な体作りをする
- ・幼保小と連携し学びと育ちをつなげる
- ・地域とのつながりを深める
- ・職員の資質向上をめざす

重点内容	重点内容に向けた具体策	評価項目	自己評価	こども園関係者評価
自己主体性を育む	日々の生活や遊びの中で一人一人の主体性や自己肯定感が育まれるような教育・保育の保障や保育教諭の関わりを大切にする	・園児の表情や行動を温かく見守りながら思いを受け止め自尊感情を育てる ・園児の意欲や探究心などを引き出す保育教諭の関わりを大切にする	A 一人一人に寄り添った関わりを大切にすることで、安心して過ごし意欲的に活動へ向かう姿や、自分の思いを言葉で伝えようとする姿が育った。興味関心に応じた環境や遊びの工夫により表現の広がりや友だちとの関わりが深まりが見られた。年齢が上がるにつれ話し合いや協力する経験を積み、役割を意識して集団の中で力を発揮する姿へつながっている。	A みたく遊びの様子から、おうちの人がしていることをよく観察する姿が育っていると感じる。こども園での教育・保育が園児の基盤となっている。グループでの学びや話し合いなどの経験は小学校にもつながっていると感じる。
	保護者と園児の育ちを共有し、教育・保育内容を園だより・クラスだより・フォトニュース・ホームページで知らせ、一緒に子育てをする	・保護者に教育・保育内容や園児の姿を工夫して伝え成長を共有する ・家庭環境や保護者のニーズを理解し、共に子育てしていく視点を持ち信頼関係を築く	A 保護者とは教育・保育の配信や送迎時の動画再生、懇談を通して成長を共有し信頼関係を築くことができた。	
体を健康にする	リズム遊びなどを継続して行い体を動かすことの楽しさを感じ体力向上を図る	・体を動かす遊びに定期的に取り組み心と体をほぐし体幹を鍛える ・園内外の環境を常に整備し安全点検や安全教育を行う	A 発達段階に応じた運動・リズムあそびを継続し、体の使い方や意欲、挑戦する力が育まれた。一方で体幹や姿勢は個人差が大きく引き続き取り組んでいく。ヒヤリ・ハットの事例を共有し園児自身が意識できるよう安全教育を行った。	A 体づくりが継続してとりくまれ、生活リズムにもつながっている。小学校以降にも影響してくるので、乳幼児期に生活リズムをつけていくことが大事だと感じる。
学びの連続性を育む	小学校や幼稚園の参観に行ったり、こども園に来てもらうなどお互いの教育・保育を知る機会を持つ	・小学校児童との交流、小学校職員との意見交流等連携を通して教育・保育の質の向上を図る	A 架け橋プログラムが始まったことで、これまで以上に連携し、職員間で参観や意見交流の機会をもつことができた。5歳児の小学校交流では、実際の教室や校内の環境に触れ就学への期待が高まった5歳児以外は避難場所や散歩で「小学校」を身近に感じることができた。小学校以降の学びにつながるよう担任間で連携して教育・保育をすすめた。	A 幼保小の連携・接続は一定できていると感じる。小学生と交流することだけが、架け橋プログラムではないので、話し合いをすることや折り合いをつける、といった活動もつながっている。引き続き、持続可能な取り組みをしていくことが大事である。
	園内での教育・保育を通し、一人一人の力を育む	・地域の教育・保育施設と情報交流や課題を共有し、連携して子育て支援をすすめる ・小学校以降の学びにつながることを見通して、乳幼児期に育てたい力を育む		
地域のつながりを深める	地域のサロンに参加したり、園庭開放やほっと預かりなどで交流を行う	・地域の施設を訪れ関係機関や団体等の協力、連携を図り子育て支援をともに行う	B 地域や関係機関と連携した子育て支援ができた。おはなし会やお茶会に加え、今年度からは近隣の高齢者施設との交流も始まった。地域の方と関わる機会を多くもつ中で、園児は挨拶や会話を通して親しみをもって接する姿が育ち、感謝や思いやりの気持ちも育まれている。	A 高齢者施設の方との交流も始まり、積極的に地域と関わる機会がとられている。お茶会では5歳児が堺のお茶の文化に触れる機会となっていた。
	地域の方とお茶会などを通して交流の機会をもち、日本の伝統に触れる	・地域の方に来ていただき、文化や地域の特性を生かした教育・保育内容を実施する	A	
職員を育てる	園内研修などで教育・保育実践を振り返り、教育・保育の質の向上を図る	・理念や方針、教育・保育課程、指導計画について職員同士が共通理解する ・研修などを通じ専門性の向上に努めるとともに自己研鑽を積極的に行う	A 他職種とも連携しながら教育・保育を進めてきた。教育・保育に関する様々な研修を受けたことで職員一人一人の質の向上につながった。さらに、園内研修で得た学びを日々の実践に生かし、安全で安心して過ごせる環境づくりにも努めた。	A 文科省等が乳幼児施設のICT化を推奨していることからICT化と保育の質の向上についても触れられるとよい。

今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法	園長より
幼保小の連携	架け橋プログラムを通じて、小学校・幼稚園との連携をさらに深め、職員間の情報共有や参観、意見交換の機会を広げていく。また、こどもの交流活動も充実させ、就学に向けたつながりをより確かなものにしていく。	こどもの意欲や関わりを育み、地域・小学校との連携を深めてきた。今後はさらに架け橋を強化し交流を充実させるとともに、安全教育を職員で学び合い、こどもが自分を守る力をより着実に育めるよう支援していきたい。
安全教育	災害時の避難行動だけでなく、プライベートゾーンの理解など、年齢に応じた教材や指導を取り入れ、こどもが主体的に自分の命・体・心を守る力を育成していく。	